

委員および一般からの意見

委員からの流域委員会の審議に関するご意見、ご指摘（2001/9/8～2001/10/28）

2001/10/1

メール

原田委員（淀川部会）

（第7回淀川部会配布資料についての意見を頂きました。淀川部会にて提出をお願いしている検討課題に付記されていました。）

1：選択取水について

高山ダムの放流水温が4月、5月（とくに5月）に低いのは、もしこの水温の水にアユがさらされるなら、影響が出てもおかしくないものと考えられる。しかし一方で、高山ダムからの放水はすぐに支流と合流し、その結果温度は変化すると考えられる。また流下するにしたがい当然、温度は上昇するだろう。そのため、下流での水温を、適当な距離間隔ごとに計測した資料が、最低、必要であろうと思う（もちろん、これだけで十分とも限らない）。

2：漁獲高の変遷

アユの漁獲高について、農林統計からのものであろうと思うが、あまり信頼できないのではないかと想像する。遊漁者の漁獲量は、アンケート調査をおこなったり、びくのぞきを行って推定することが可能であるが、それでもなかなか信頼できる推定値を得ることは困難である。そもそもこのような調査を行った例は、全国でも数えるほどしかなく、長期にわたって継続しているところは皆無であると思われる。組合員の漁獲量も、海の魚とちがいで、おそらく自家消費がほとんどで、出荷されるにしてもきまった市場を通じて出荷されるわけではないのが普通の状況では把握は困難である。傾向程度は表していると信じたいが、それすら疑問である可能性もある。アユ以外については、さらに疑問である。このような漁獲の情報が河川管理を考える上で重要であるという合意がえられるならば、よりしっかりしたモニタリングの態勢を整えることが必要だと考える。とくにアユについては、現状では困難ではあるが、放流魚と天然遡上魚を区別した資料が重要と思われる。

3：河川公園アンケート

「利用者」アンケートだと、そもそも現状の河川公園になんらかの魅力を感じて足を運んだ人の声であり、バイアスが生じるのではないかと想像する。

一般からの流域委員会へのご意見、ご指摘（2001/9/8～2001/10/28）

	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内 容
1	環境にやさしい街づくり推進会 管野 敬氏	第5猪	9/10 (10/11)	（猪名川部会長（米山委員）あてに質問書が届きました。） 別紙1をご参照下さい。 回答については、第5回猪名川部会(10/9)にて検討を行い、10/11に回答書をお送りしました。別紙2をご参照下さい。
2	葭留 竹田氏	第6琵琶	9/17	（一般傍聴者として議事録の確認をお願いした際の返信に記入されていたご意見です。） 西野委員の発表では、ヨシが刈取られる事が悪いかのように思われますし、嘉田委員の発表では、80%も自然が壊されている状態が十分に説明されないと、現状を知らない人は誤解してしまい、発表者の意見を鵜呑みにされるように思われます。発表には、十分なる時間と準備をお願いします。 又、現状を知るには、何日も現場に足を運び現地声を聞かなければならないのに、現地声を十分に聞くような体制が出来ておらず、発表や声を聞こうとしない通り一辺倒の議事に問題があります。いわゆる閉ざされた委員会であり部会であり十分なる配慮をお願いします。 淀川なり琵琶湖を理解し、良くしようとするならば、地元民の現状なり過去の声を引き出そうとする組織を立ち上げる必要があるが、現状は委員のほとんどが近年の変化を十分に知らずに話していることに疑問を感じますと共に何を目的にし、議論しているかもう一度考えを建て直して頂きたい思います。
3	京都クマタカ研究会 中村桂子氏	×	10/10	第4回委員会、ある委員の発言について クマタカに限らずあらゆる生き物の生息を決定づけているものは、そこで暮らせる否か、すなわち食べ物があり、子育てできる環境が整っているかどうかではないかと思われます。 したがって、クマタカが暮らせる環境が整っているところには、既にクマタカが縄張りをもって暮らしており、ひとつ（1ペア）の生息場所（生息環境）が失われれば、1ペアが暮らせなくなるのであり、それは個体数の減少であります。羽根があるからといって簡単に他の場所へ移ることなどできないのです。簡単に言えば、自分の縄張りがダメになれば、他のペアの縄張りを奪い取るしかありません。実際は短期間に1ペアの行動圏が完全なくなるような環境変化というのは少ないので、ジワジワと隣接個体と攻防を繰り返し、力の強いペアが他のペアを追い出したりして生息密度が低下するものと思われます。 淀川水系や琵琶湖に注がれる主要河川の山間部の流域には、ほぼ全てにクマタカが生息しています。しかし、どの河川にも大規模なダムが建設されたり、流域の森林の人工林化、森林の活用の変化などにより、水系および水系を取り巻く環境が著しく変化しています。それに伴いクマタカの正常な暮らしができなくなってきました。 餌動物の減少や、獲物を狩ることのできる環境が減少し、子育てをしないことが多くなってきています（繁殖成功率が低下しています）。 しかし、クマタカは新天地を求めて飛んでいくことはありません。 こうした状況が長期間続くと世代交代ができず、これらの地域個体群の生息密度が低下、すなわち生息個体数が減少することになるでしょう。 長年にわたって築かれた淀川水系の生態系には、クマタカもその一員であ

	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内 容
				り、言いかえればクマタカなどの猛禽類は水系の健全さを示す指標のひとつであると考えられます。水系の貴重性については、こうした視点で評価すべきと考えます。
4	坂本氏	×	10/22	情報提供のための「メールマガジン」、情報、意志収集のための「掲示板」等の設置予定は無いのですか。
5	奈良市情報 公開をすす める会 福 井 隆夫氏	×	10/23	私達木津川流域一帯の市民は木津川の水質に重大関心を持っています。そこで今後継続して研究して頂く為独立の部会を設けるか、分科会にするかをご検討願います。

(別紙 1)